

「気軽に」認知症カフェ

介護事業者と飲食店コラボ

民間の介護事業所とカフェがコラボした県内初の認知症カフェが十九日、越前市芝原丑丁目のコメダ珈琲店武生店で始まった。「KomedaxKirameki夢カフェ」の名称で月一回開き、認知症の予防や知識の普及に努めていく。

市からの委託で運営する介護施設「県民せいぎょう丹南きらめき」（同市家久町）によると、市内の介護施設や公民館での認知症カフェは、参加者の地域が限定的で、興味があつても介護施設に足を運ぶことに抵抗があるなどの課題があつた。そこで、カフェに行くように誰もが気軽に利用できるよう市内の飲食店に協力を求め、コメダ珈琲店武生店が賛同した。

夢カフェは毎月第三木曜日の午前十時～正午に開

予防に取り組み養成

き、あるいは他のスタッフ二人が常駐。脳トレなど認知症予防に取り組み、認知症に関する講座や認知症サポート

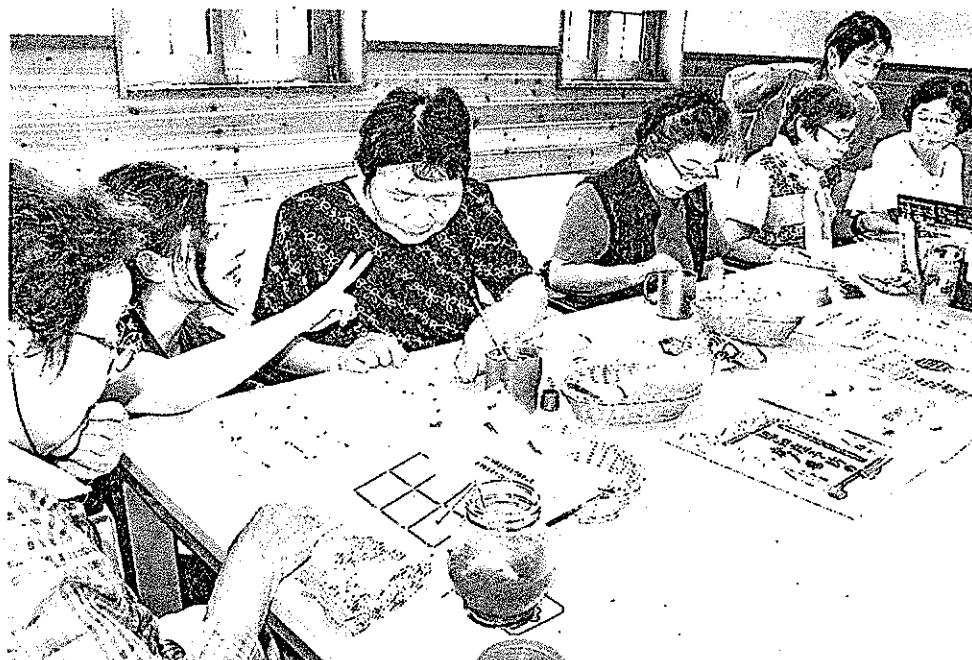
ーターの養成なども行う。認知症のお年寄りを世話する家族の相談にも応じる。誰でも利用でき予約は不

用を決まった本数だけ動かして指定した図柄にする脳トレなどを楽しんだ。六歳で現役の訪問販売員という同市家久町の田辺み

子さんは「仕事もそうだが、外に出る」とは刺激になる。マッチ棒のは難しかつたが、知らない人と会えるし、来月も来たい」と話した。

きらめき統括施設長の佐々木麻美さん（三五）は、「認知症や関心がある人の社会参加の場所が広がった。認知症は分かりにくい病気。地域に発信していきたい」と話し、コメダ珈琲店武生

マッチ棒を使った認知症予防の脳トレに挑戦するお年寄りら=越前市のコメダ珈琲店武生店で



要。飲食は有料。

」の日は、お年寄りらが

同店のメニューを味わいながら、マッチ棒で作った図

形を決まった本数だけ動かして指定した図柄にする脳トレなどを楽しんだ。八十六歳で現役の訪問販売員といふ田辺み子さんは「仕事もそうだが、外に出る」とは刺激になる。マッチ棒のは難しかつたが、知らない人と会えるし、来月も来たい」と話した。

きらめき統括施設長の佐々木麻美さん（三五）は、「認知症や関心がある人の社会参加の場所が広がった。認知症は分かりにくい病気。地域に発信していきたい」と話し、コメダ珈琲店武生店の白崎智之店長は、「くつろげる店舗を目指しており、取り組みを通じて実現できればと思つ」と願つた。

（山内道朗）